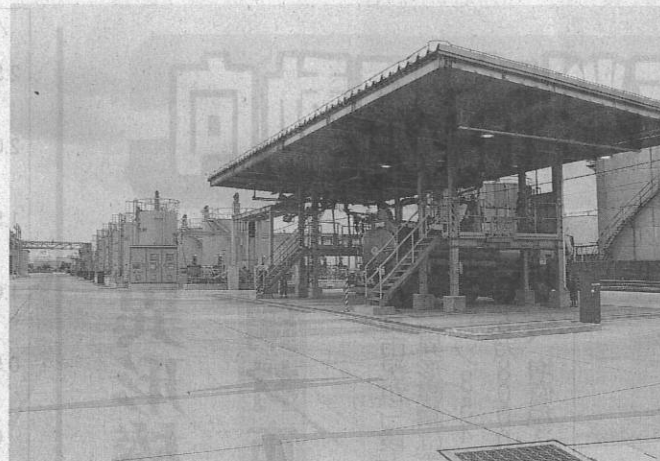


# ダイセキグループ

## 来期、事業堅調見込む

### 新工場建設 扱い量拡大へ

【名古屋】産業廃棄物処理大手、ダイセキを中心とするダイセキグループは2018年2月期、グループ各社で事業が堅調推移する



リサイクル燃料工場

見込みであることを明らかにした。ダイセキ本体ではリサイクル燃料の需要増が予測されるほか、子会社のダイセキ環境ソリューションでは中部地区に新工場を開設する計画。鉛二次製錬のダイセキMCRでも生産数量の増加を目指していく。

原油価格が16年度前半まで低迷していたこともあり、ダイセキが取り扱う再生重油やエマルジョン燃料などのリサイクル燃料の単価が低迷。また、バージン材であるA重油が価格を落としたため、再生重油に割高感が生

じ、販売数量も前期から約8%減少するなど売上高、販売ともに厳しい状況が続いた。だが、16年度後半に入り原油価格が値を戻し始め、足下は50%前後のボックス圏で安定推移している。そのため、17年度に関しては

前期減少分の回復が見込まれている。エマルジョン燃料については、今期は前期比17%増と堅調に推移しており、来期も10%増を予測するなど堅調な動きが続く見込み。ダイセキ環境ソリューションについては、

土壌処理工場を愛知県弥富市に3月に開設するほか、岐阜県内にも17年度中に建設することを予定している。これにより処理能力が拡大するため、同社ではさらなる取扱量の増加を予測している。ダイセキMCRも今期から新工場の稼働が軌道に乗るため、17年度は前期から生産の上積みが見込まれる。

ダイセキの柱秀貴社長は「ようやく長いトンネルから抜け出したところ。17年度は反攻勢を目指していきたい」と力強く語り、来期への期待感を示した。